



常中 オリ・パラ通信



2017.12.14(Thu) No.1

○常盤松中学校がオリンピック・パラリンピック教育の実施校に指定されました！

2020年、オリンピック・パラリンピックが東京で開催されます。2013年9月にフランスで開催された100（国際オリンピック委員会）総会で滝川クリステルさんの「おもてなし」や日本が最多メダルを獲得した2016年リオオリンピックでの安倍総理の“マリオ”が話題になりました。競技では今大会で、野球、ソフトボールが復活すると共に、空手、スケートボード、スポーツクライミング、サーフィングが新たに加わることになりました。

オリンピック・パラリンピックでは、世界中の様々な人々がスポーツを通して、競い合い認め合い、そこから大きな感動が生まれます。その大会が日本で開催される。テレビやラジオを通して見るよりもより大きな衝撃と感動を得られるのではないのでしょうか。いま私たちはオリンピック・パラリンピックを通じて、スポーツの価値や参加国の人々や文化などを学ぶ大きなチャンスだと思います。

常中は「オリンピック・パラリンピック教育」実施校として、2本柱で取り組みを進めていきます。1つ目は「スポーツプロジェクト」。競技の知識を深めるだけでなく、実際に競技をやってみて、その楽しさや難しさなどを感じてみようというものです。どの競技かは現在調整中ですが、実際に体育の授業等で競技に触れる機会もあると思います。2つ目は「グローバルプロジェクト」。流山市はオランダのホストタウンとして選手がやってきます。オランダの人達はどんな文化を持っているのかを知り、私たちとの違いや共通点などを知ること、交流を深めていきたいと考えています。

これまでは「見る」ことが大部分だったオリンピック・パラリンピック。今後は大会を通して様々なことを学び、よりオリンピック・パラリンピックを楽しみ、私たち自身も何かしらの形で参加できることを目指したいですね。

○<グローバルプロジェクト> オランダについて知ろう①

流山市がオランダのホストタウンとして登録されました。一体なぜでしょう。

「オランダ観音」を知っている人は多いと思います。「オランダ観音」の正式名称は「馬頭観音」と言います。幕府が馬の品種改良のため、アラビア馬をインド周辺の地域から連れてきたのですが、オランダ船で運んできたのでオランダ馬と呼ばれていました。この馬たちの気性が荒くなり、手に負えなくなってしまう、処分することになってしまいました。死んでいった馬たちの霊を慰めるために建てられたのが「馬頭観音」なのです。

江戸時代、利根川の流れを変えて現在の江戸川の流れができました。明治時代に広瀬誠一郎という人物が利根川と江戸川を運河で結ぶことを考えました。いわゆる「利根運河」です。その工事を設計したのは、当時外国人技師として来日していた、オランダ人のローウェンホルスト・ムルデルという人でした。（ムルデルの顕彰碑が、運河駅近くの流山市立運河水辺公園に設置されています）。こうした歴史的なつながりを含め、流山とオランダは交流を続けているのです。これらの内容は『発見われらの流山』により詳しく載っています。読み返してみましょう。



他にも、2016年リオ大会の公式卓球台プロバイダーに選ばれた世界的な卓球台メーカー「三英（SANEI）」が市内にあることや、キックマンアリーナの竣工式にオランダ大使館やNOC（国内オリンピック委員会）の関係者が出席したこと等、様々な人脈を活用し、卓球等の事前合宿誘致を進めているところです。（文責：梅津 潤一）